

元気アップ 主体会

2017. 5 Vol.42

平成28年12月 みえの郷84床から97床に増床
改修した食堂風景



も く じ

みえの郷 改修した食堂風景 …………… 1	施設行事 …………… 6
特集 地域連携室& 医療ソーシャルワーカー …… 2～3	看護部マスコットキャラクター制作 …… 6
新入職員紹介 …………… 4～5	三重県透析研究会学術集会 …………… 7
健康への窓 …………… 5	部署紹介 主体会病院・在宅医療福祉部 …… 8
	元気アップコーナー・編集後記 …… 8

今後、より一層進む高齢化を見据え、地域の実情に応じて、住民が可能な限り住み慣れた地域で日常生活を営むことを支える「地域包括ケアシステム」の構築が急務とされています。

その中で我々主体会グループでは、地域としっかり連携を取りながら求められる機能・役割を果たしていくため、「医療ソーシャルワーカー」の配置と体制強化を早くより進めてまいりました。

医療ソーシャルワーカーって何をする人??

社会生活を送る上で様々な困難や不安、悩みを抱えている方の相談を受け、その解決に向けて、助言や情報提供、手続きや意思決定の支援を行い、多様な社会資源との連携等を通じて生活を支える社会福祉の専門家をソーシャルワーカーと呼びます。取り扱う生活問題としては、貧困や経済的な問題を筆頭に、介護や住まい、家族関係など多岐にわたります。主に社会福祉士や精神保健福祉士を基礎資格とし、行政や福祉事業所、教育機関、保健医療機関等で働いています。コミュニティ・ソーシャルワーカー、スクール・ソーシャルワーカーなど所属領域ごとの呼び方もあります。その中で、保健医療機関で勤務するソーシャルワーカーのことを医療ソーシャルワーカーと呼び、メディカル ソーシャル ワーカー エムエスダブリュー、Medical Socia Workerを略して、MSW とも呼ばれます。

主体会グループでは、今春さらに新卒者が加わり、総計18名の医療ソーシャルワーカーが勤務しています。これは三重県内の保健医療機関の中でもトップクラスの充実した人員体制となります。今回は、主体会病院、小山田記念温泉病院それぞれで医療ソーシャルワーカーが所属する「地域連携室(医療相談室)」をご紹介します。



主体会病院 地域連携室

医療ソーシャルワーカーをご存知ですか？

	主体会病院	小山田記念温泉病院
人 員	医療ソーシャルワーカー 4名 退院調整看護師 1名	医療ソーシャルワーカー 6名 退院調整看護師 1名
主な業務内容	受診・転院・入院等に関する各種相談、退院支援、制度手続支援（医療保険、介護保険、障害者福祉制度等）、地域の医療・福祉機関との連携業務等	
特 徴	<p>当院は市街地の中心に位置しております。近鉄四日市駅より徒歩圏内とあって、自家用車で通院できない方や遠方からの方も通院していただいています。地域の方はもちろんの事、県内外の方も転院依頼があれば積極的に受け入れさせていただいております。</p> <p>又、透析設備やリハビリ体制の充実を図り、重症患者様の受け入れも行い、対応させていただいております。</p>	<p>当院は老人保健施設みえの郷が併設されている他、社会福祉法人青山里会の様々な福祉施設が隣接しています。それらが連携することで、当院が力を入れるリハビリを含め、保健・医療・福祉の複合的なサービスが提供できるという特徴があります。</p>
皆さまにお伝えしたいこと	<p>主体会グループでは他職種連携を取り、チーム医療として患者様ひとりひとりが「主体会病院、あるいは小山田記念温泉病院に入院して良かった」と思っただけの様な入退院支援ができるように努力しております。</p> <p>家族様が遠方のためなど、様々な理由で施設への入所を希望されることは珍しい事ではありません。施設も多様化してきており、どこに行ったらいいのか分からないとの相談も少なくありません。</p> <p>退院先の道筋を患者様・家族様と一緒に考えていく中、様々な制度を組み合わせ利用する事で、「諦めていた自宅へ退院する事に希望が持てる様になった」と患者様・家族様から、うれしいお言葉をいただいております。</p> <p>平成29年度より両院で退院支援看護師を配置しており、より専門的な相談・支援に取り組んでおります。</p>	



小山田記念温泉病院 地域連携室

新入職員紹介

入社式 平成29年3月21日(火)

新入職員数 計 64名

主体会病院 35名

小山田記念温泉病院 27名

みえの郷 1名

みえ川村老健 1名



主体会病院 新入職員



小山田記念温泉病院 新入職員

片山 和馬 理学療法士 (主体会病院)

今春より、理学療法士として主体会病院で勤務させて頂くことになりました。

諸先輩方から知識や技術、社会人としての在り方を学び、皆様に信頼していただけるよう頑張ります。

患者様一人一人の「その人らしさ」を念頭に置き、適した医療を提供できる理学療法士になれるよう日々精進していきます。

ご指導よろしくお願ひ致します。

沖 光稀 栄養士 (主体会病院)

栄養士として主体会病院で勤務させていただきます。

患者様に安心して、食事を楽しんでいただくため、諸先輩方のご指導のもと向上心を持って、日々精進してまいります。また、患者様の「笑顔」を引き出す力になるよう、私も笑顔を忘れることなく、「食」を通じて貢献したいと思ひます。

今後とも、よろしくお願ひ致します。

中津川 あかね 看護師 (小山田記念温泉病院)

今春より、看護師として小山田記念温泉病院にて勤務させて頂くことになりました。

充実した環境の中、経験豊富な先輩方と共に働くことができることを大変嬉しく思ひております。先輩方から多くのことを学ばせて頂き、1日も早く患者様やそのご家族様から信頼して頂ける看護師となれるよう日々精進したいと思ひております。

ご指導よろしくお願ひ致します。

永戸 陽菜 介護職員 (介護老人保健施設みえの郷)

今春より介護職員として介護老人保健施設みえの郷で勤務させて頂くことになりました。

夢であった介護老人保健施設みえの郷で勤務させて頂けることを嬉しく思ひます。

先輩方から多くを学び、皆様に信頼していただける介護職員になれるよう日々精進していきたいと思ひております。

皆様どうぞよろしくお願ひ致します。



小山田記念温泉病院 泌尿器科 栃木 宏水

前立腺がんを早期発見するためや治療後の経過観察の検査法として知られてきています。PSAとはprostate specific antigen(前立腺特異抗原)の略で、前立腺細胞だけから分泌されるタンパク質の一種で主に精液中に分泌され精子の運動に関与しています。PSAが発見される以前に、日本人が精液中から精製した物質を γ セミノプロテインと命名しましたが、これは後日freePSAと同一物質であると判明しています。さらにアメリカ留学中の日本人が血液中のPSA測定法を確立し、PSA検査が普及したことにより前立腺がんの診断・治療に寄与することとなりました。

健康男性の場合PSAが血液中に流出する量はわずかでおおよそ2ng/mL以下です。

加齢に伴う前立腺の肥大や慢性炎症により増えることがあり、年齢により基準値は変わりますが一般的には4ng/mL以下が正常値とされています。しかし、前立腺の異常(前立腺肥大症、前立腺がん、急性炎症など)や

外部からの機械的刺激があると血液中に多く流出し異常高値となります。この中で、もっとも重要な疾患が前立腺がんです。排尿症状からは良性の前立腺肥大症と前立腺がんの区別がつかないため、PSA高値であれば泌尿器科医を受診し、直腸指診や超音波検査を行い、前立腺針生検を行う必要があるか決定します。

一般住民に対する前立腺がん検診では、一般的に50歳以上の男性を対象にPSA検査(個人の基準値を知ることが大切)を実施してきましたが、厚労省研究班がPSA検査の有用性はあっても死亡率減少効果の証拠が不十分とし、住民検診としては勧められないとする見解を公表し、泌尿器科学会と論争となり、同様に米国予防医療専門委員会と米国泌尿器科学会との間でも同様な論争が起きました。その後、PSA検診の有効性を証明した臨床試験の結果が発表され、現在は、PSA検診の利益と不利益が十分に説明されたうえでより適正に検査を行うという方向に進んでいます。PSA検査によって治療の必要がないがんまで見つけてしまい、過剰診療につながる可能性があるとの考えから、前立腺がんを診断しても悪性度が低い場合は経過観察する選択もとられています。

がんの確定診断は系統的な前立腺生検ですが、合併症もあり侵襲性検査となります。最近では生検を考える前に、MRI検査にて悪性度の高い異常個所を検出できるようになり、生検の精度が上がっています。小山田記念温泉病院と主体会病院では各病院に最新の3T-MRIが導入されており、前立腺がん診断に貢献しています。

施設行事

みえ川村老健

文化祭

H28.11.14(月)～18(金)



完成への満足感！
リハビリにもなりとてもよい
作品ができました。

クリスマス会 H28.12.14(水)



迫力ある生演奏。みんなで大合唱です。

お知らせ

H29・4から第2土曜日みえ川村老健にて『くらぶ☆なじみ』を開催します。地域の皆さまが気軽につどえる健康教室などを予定しています。興味のある方はぜひご参加ください。

看護部 マスコットキャラクター制作

主体会病院看護部主任会では、平成25年からフィッシュ活動を取り入れています。これまでに、各病棟で病棟新聞やスタッフボードの作成、看護部全員でのジャンケン大会など、看護部の活性化を図るとともに、楽しい職場づくりをしてきました。平成28年度は何か形に残るものを作りたいという思いで、看護部オリジナルのマスコットキャラクターを制作することにしました。

制作過程において各部署でスタッフ間のコミュニケーションを図ることを目的に、各部署から1作品出してもらい人気投票をして決定しました。看護部をアピールし、イメージアップを図り、今後は新人研修、勉強会などの冊子の表紙などに使用する予定です。

名前は、『真心を込めた看護』の“真”、『患者様のための主体的な医療を提供します』の“主”から“マッシュちゃん”としました。皆さんに愛され、心に残るキャラクターであればいいなと思っています。

主体会病院 新館4階 看護主任 中西 美保



マッシュちゃん

第54回三重県透析研究会 学術集会在開催されました

主体会グループから次の演題が発表されました

「透析中のベルト電極式骨格筋電気刺激法が身体機能に与える影響」

平野 裕三(理学療法士) 主体会病院 総合リハビリテーションセンター

「透析患者における睡眠障害と透析間隔との傾向」

下地 貴晴(臨床工学技士) 主体会病院 透析センター

「透析プライミングにおけるプライミング液組成の経時変化」

伊藤 寛則(臨床工学技士) 小山田記念温泉病院 透析センター

■透析中のベルト電極式骨格筋電気刺激法が身体機能に与える影響

三重県透析研究会学術集会は毎年開催されており、今年で54回を迎えました。

透析患者の高齢者の割合は年々増加傾向にあり、2020年には透析人口全体の86%を60歳以上が占めると言われています。透析をしている患者さんの高齢化にともない、体力の低下などが問題となっています。

実際、海外の研究によると、透析をしている患者さんの体力は、心不全の患者さんや慢性閉塞性肺疾患の患者さんと同レベルまで低下していると報告されています。

こういった問題の解決手段の一つとして運動療法への期待が高まっています。しかし、透析をしている患者さんが運動を継続して実施するにあたり、週3回の透析時間や透析後の疲労などが原因で、運動を実施する時間的余裕がない点が問題となる事があります。

そこで近年、透析中に寝た状態でも実施可能な介入方法としてベルト電極式骨格筋電気刺激法(以下B-SES)が注目されるようになってきました。B-SESとはベルト状の電極を、腰・膝・足首の周囲に巻き付けることで電気を筒状に足全体に流し、筋肉を収縮させることで筋力の向上をはかる介入方法です。体内の70%の筋肉を占めている足全てを動かすことが可能となるため、エネルギー消費が高まることで効果的な運動が行なえます。また、電極面積が大きくなるため、一カ所あたりの電位分布が分散され痛みを感じにくく、強い筋収縮を行なうことが可能となり、より高い筋力の向上効果が期待できます。



透析中のB-SES画像



平野裕三理学療法士 発表風景



平野裕三理学療法士と川村理事長

当院でも平成28年6月より、B-SESを用いた透析中の介入を始めており、筋力・バランス能力・歩行能力について良い効果が得られた為、平成29年2月12日に行われた第54回三重県透析研究会学術集会において、当院での取り組みを報告させていただきました。

学術集会では全体で33演題の発表がありましたが、その中で、本演題が最優秀演題賞をいただきました。

この結果を励みに、今後も最先端のリハビリを患者さんに届けられるよう精進していきたいと思っております。

(主体会病院 総合リハビリテーションセンター 平野 裕三)

部署紹介

在宅生活での困りごとはありませんか？今、日本の高齢化に対して、在宅医療の必要性が叫ばれています。通所リハビリテーション（介護保険を持っている方が対象）は、自宅退院後や地域にお住いの方に対して、在宅生活での様々な不安解決、日常生活、社会参加を支援させていただきます。衰えた機能回復のみを目指すのではなく、生活再建プランをどのように描いていくのかをご利用者さんと一緒に考えることを大切にしています。

利用時間は、長時間（6時間）と短時間（1時間）を選んでいただけます。それぞれ担当職員と療法士が個別プログラムを立案し目標達成を目指しております。医師・看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療

主体会病院 在宅医療福祉部 （通所リハビリテーション）



法士・社会福祉士・運転手が一丸となって在宅生活を支援しております。

主体会病院 在宅医療福祉部（通所リハビリテーション） 木股 徳充



第17回主体会 リハビリテーション研究会を終えて

第17回主体会リハビリテーション研究会が平成29年2月25日に開催されました。

毎年開催される小山田記念温泉病院・主体会病院合同の研究会で、リハビリテーションスタッフ約140名が参加しています。今年は6演題の研究発表が行われました。

私はその中の1演題として、「回復期脳血管疾患患者の座位評価を用いた歩行予後予測について」という研究を発表させて頂き、理事長賞を頂きました。

日々の業務を通して、私は患者様の退院時の歩行能力を予測する事は、治療内容や目標の設定、入院期間を予測する為に重要であると考えています。そのため、簡便に行える検査で退院時の歩行能力が予測できないかと考えてこの研究を始めました。そして、今回の研究の結果として信頼性の高い歩行能力を予測するための新たな指標が得られました。

今後はこの研究で得た結果を患者様に還元していくことが出来るよう努力していきます。

小山田記念温泉病院 理学療法士 荒木 大地



編集後記



風薫る5月、爽やかな季節になってきました。八十八夜を過ぎると、小山田周辺ではお茶摘みが始まり、周囲を素敵な香りが漂います。新年度が始まり、何かと忙しい時期ではありますが、ふと足を止めてみると、新しい何かに気付くことができるかもしれません。気持ちをリラックスする為に、摘みたての新茶を飲んで、ほっと一息してみるのもよいかもしれませんね。（小山田記念温泉病院 リハビリ 杉本菜奈子）